



第 1 5 6 期救急科を実施しました

[期 間] 令和 7 年 6 月 6 日（金）から 7 月 2 4 日（木）まで
3 4 日間

[会 場] 埼玉県消防学校
所属消防本部（局）

[到達目標] 救急医学に関する基礎知識に基づき、応急処置時における的確な
観察・判断能力、応急処置に必要な専門的スキルを修得し、救急隊
員として活動できる。

[教育対象] 救急業務に従事させようとする者（日赤救急員の有資格者、初任
教育救急講習修了者又はこれらと同等以上の知識技能を有する者）

[修了者] 2 6 消防本部（局）8 5 名
平均年齢 2 4 . 1 歳

埼玉県消防学校 第156期救急科 日課表

令和7年6月6日（金）～令和7年7月24日（木）
34日間 272時間

受講場所 埼玉県消防学校 大講義室

	日	曜日	1 時限 8:30～9:20	2 時限 9:20～10:10	3 時限 10:10～11:00	4 時限 11:10～12:00	5 時限 13:00～13:50	6 時限 13:50～14:40	7 時限 14:50～15:40	8 時限 15:50～16:40	
座学	6/6	金	入校式	ガイダンス (担当教官)			救急活動（法規） (戸田市消防本部 講師)				
	6/9	月	循環器・出血 (川口市消防局 講師)				神経 (深谷市消防本部 講師)				
	6/10	火	消化器 (西入間広域消防組合消防本部 講師)			呼吸器 (行田市消防本部 講師)		救急医療 (医療整備課)			
	6/11	水	効果測定① (担当教官)	泌尿・生殖器 (埼玉東部消防組合消防局 講師)			運動器 (埼玉県央広域消防本部 講師)		社会保障・社会福祉Ⅰ (国保医療課)		
	6/12	木	観察 (さいたま市消防局 講師)				内分泌・代謝 (埼玉県南西部消防局 講師)		皮膚・感覚器 (吉川松伏消防組合消防本部 講師)		
	6/13	金	ショック (熊谷市消防本部 講師)				CPA・CPR (蕨市消防本部 講師)				
	6/16	月	血液・体液・熱中症 (埼玉県南西部消防局 講師)			社会保障・社会福祉Ⅱ (社会福祉課)	細菌・感染症・感染防止・消毒 (上尾市消防本部 講師)				
	6/17	火	応急処置総論・各論 (埼玉西部消防局 講師)				熱傷・電撃症・救急搬送 (埼玉西部消防局 講師)				
	6/18	水	急性心血管系疾患 (比企広域消防本部 講師)				急性腹部疾患 (羽生市消防本部 講師)				
	6/19	木	急性呼吸器疾患 (児玉郡市広域消防本部 講師)				脳血管障害 (草加八潮消防局 講師)				
	6/20	金	集団災害 (川越地区消防局 講師)				意識障害 (熊谷市消防本部 講師)				
	6/23	月	腹部外傷 (蓮田市消防本部 講師)				脊椎・脊髄損傷 (埼玉西部消防局 講師)				
	6/24	火	外傷総論・その他外傷処置 (埼玉東部消防組合消防局 講師)				一般外傷各論 (春日部市消防本部 講師)				
	6/25	水	頭部・顔面外傷 (秩父消防本部 講師)				胸部外傷 (三郷市消防本部 講師)				
	6/26	木	効果測定② (担当教官)	検査・高齢者 (坂戸・鶴ヶ島消防組合消防本部 講師)			処置各論（在宅療法） (入間東部地区事務組合消防本部 講師)				
	6/27	金	急性中毒 (川口市消防局 講師)			資機材取り扱い (ストライカー)	処置各論（心電図） (埼玉県央広域消防本部 講師)				
	6/30	月	小児救急医療 (さいたま市消防局 講師)				産科・周産期 (草加八潮消防局 講師)				
	第二回事前	7/1	火	精神救急 (上尾市消防本部 講師)			鑑識 (埼玉県警察)	四肢・骨盤外傷 (越谷市消防局 講師)			
	第三回事前	7/2	水	異物・溺水 (越谷市消防局 講師)			接遇 (さいたま市消防局 講師)	安全管理		実技訓練概要 (担当教官)	

訓練場所 埼玉県消防学校 大講義室 屋内訓練場

			1 時限 8:30～9:20	2 時限 9:20～10:10	3 時限 10:10～11:00	4 時限 11:10～12:00	5 時限 13:00～13:50	6 時限 13:50～14:40	7 時限 14:50～15:40	8 時限 15:50～16:40
実技	7/3	木	資機材取扱訓練				6 ブース基本訓練			
	7/4	金	外傷訓練（資機材取扱）・CPR対応訓練				内因訓練（各種評価・観察問診・気道管理）			
	7/7	月	内因訓練（意識レベル評価・麻痺の観察）				外傷訓練（状況評価・初期評価）・CPR対応訓練			
	7/8	火	外傷訓練（腹臥位3想定）・AED4波形訓練				内因訓練（バイタル測定・喉頭展開訓練）			
	7/9	水	内因訓練（喉頭展開訓練・ターポリン訓練）				外傷訓練（全身観察・緊急処置）			
	7/10	木	ストレッチャー曳航訓練・トリアージ訓練 車外救出訓練				内因訓練（各種症例）			
	7/11	金	外傷訓練（初期評価～全身観察） CPR対応訓練				内因訓練（各種症例）			
	7/14	月	外傷訓練（指令～ファーストコール） 小児・乳児CPR対応訓練				産婦人科救急訓練 （草加八潮消防局 担当講師）			
	7/15	火	内因性シミュレーション							
	7/16	水	外因性シミュレーション							
	7/17	木	効果確認シミュレーション							
	7/18	金	総合シミュレーション							

受講場所 所属消防本部（局）

実技	7/22	火	現 場 実 習							
	7/23	水	現 場 実 習							

受講場所 埼玉県消防学校 大講義室

	日	曜日	1 時限 8:30～9:20	2 時限 9:20～10:10	3 時限 10:20～11:10	4 時限 11:10～12:00	5 時限 13:00～13:50	6 時限 14:00～14:50	7 時限 15:00～15:50	8 時限 15:50～16:40
座学	7/24	木	R・I （埼玉県衛生研究所）		資機材取扱 （コーケンメディカル）		社会保障・社会福祉Ⅲ （地域包括ケア課）	救急交通 （埼玉県警察）	修了式 （担当教官）	

BVM訓練



ストレッチャー取扱訓練



外傷訓練



保温訓練



産科救急訓練



車外救出訓練



感染症対応訓練



教官シミュレーション訓練



修了しての感想

救急という新しい分野を学ぶことができ、毎日が新しい発見や初めての経験で刺激的な日々を過ごすことができました。

また総代を任せていただいたことが私自身に大きな変化を与えるターニングポイントとなりました。とても貴重な経験でした。

学ぶ環境を整え、御指導していただいた教官、講師の皆様、感謝いたします。ありがとうございました。



後輩へのメッセージ

①両足で立つ②片足で立つ③片足のつま先、倒れないようにバランスを保とうと頑張るのは何番でしょうか。

慣れた環境や仕事を安定していると定義すると、不安定とは新しい人間関係や場所に身を置くということになると思います。自ら『不安定』な道に進むことは勇気が必要ですが、自分自身の成長を感じることができ、きっと楽しいはずです。

何事にも失敗を恐れずに挑戦してください。

最後に救急科の期間中に『友達』をつくってください。また会いたくなるような。

修了しての感想

第156期救急科を無事に修了にあたり、学校教官、座学講師、実技教官など多くの方が、私たち学生のために御尽力いただいた事に厚くお礼申し上げます。

私たち学生は消防職員として必要となる救急の知識、技術、接遇などを学ばせていただき、救急現場で私たちがより市民の為に、生命、身体を守る為に知るべき事や、適切な医療機関へ搬送することの大切さを学ぶ事ができました。

実際に学んでいく中で、難しい事が多かったですが、今回学んだ事を救急現場で活かせるよう、更なる勉強を続け頑張っていこうと思います。



後輩へのメッセージ

初めは救急の知識は難しく、理解するのに苦労するかもしれませんが、この救急科で行う全ての講義や実技が今後において、とても重要になります。そのため、事前に学習しておく事で更に理解が深まり、シミュレーション訓練では楽しくなりますので、事前学習しておく事をお勧めします。

修了しての感想

私は第156期救急科第1小隊副総代として任命されました。

この救急科では救急の知識及び技術を学ぶ事は勿論の事、副総代としての立場に責任を持ち、教官方、各総代と第2小隊副総代のサポートを念頭に日々過ごしました。

消防において、救急の知識及び技術というのは欠かせなく、日々学ぶにつれ救急の難しさを感じるとともに、人間の生命の尊さを強く感じました。

生理学的知識、解剖学的知識どちらも理解を深め、的確な救命処置により、その方の予後を左右する重大な任務を私たちは担っている事、この救急科課程において、より一層強く感じた所であります。

「現状維持は退歩」という言葉があるように、生涯救命に対して知識及び技術を学び、国民の生命、身体及び財産を守っていく事を心に刻んでいきたいと思います。「接遇、仲間、絶対救命」この言葉はこの救急科課程において、よく耳にする言葉でした。今後もこの言葉を胸に刻み消防人生を歩みたいと思います。

また、私の人生において一度きりしかないこの救急科課程で、仲間に出会え、切磋琢磨して救急を学べた事。これは、何よりも私の宝物です。

埼玉県消防学校の関係者の皆様、教官方、学生の方々に感謝します。約二ヶ月間、ありがとうございました。

後輩へのメッセージ

志高く日々学ぶ事を続ければ、必ず自身に返ってくる見返りは大きいものになると思います。まずは、救命の知識及び技術を学べる環境に感謝する事、その姿勢がとても大事な事だと感じます。

救急科に入校したら、妥協する事なく一日一日を大切に学んでください。また、この場では最高の仲間に出会えます。

救急を学ぶ事、仲間を大切にする事、どちらも楽しんで頑張ってください。



修了しての感想

埼玉県消防学校救急科を通じて、苦しい思いをしている市民の方々に、必要な医療を届け、一刻も早い病院搬送をするためには、広く、深い知識と判断力、迅速で安全な手技、痛みに寄り添える思いやりが必要だと改めて感じました。

これからの救急現場に求められるものは、さらに専門的かつ高度に、多くなっていくことが予想され、その習得、習熟は険しい道になると実感しました。

ただ、ここで学ばせていただいた内容は、この険しい道のりのスタートラインに立ち、進んでいくための道しるべとなるのではと思っています。

私もここで学んだことを、さらにより学び、より磨くことで、今後の救急活動に役立てる事が重要だと考えています。

指導してくださった埼玉県消防学校の専科教官、座学に来ていただいた講師の方々、実技教官の方々に心より感謝を申し上げます。



後輩へのメッセージ

救急業務に不安を抱きながら入校する方もいると思いますが、この期間で救急に興味を持ち、常に学ぶ姿勢があれば、この救急科には最高の教官、講師が懇切丁寧な指導をしてくれます。また、分隊と共に学び、活動したり、他学生と交流することで、視野が広くなり、今まででは気づけなかったことに気づけるようになると思います。

節度を守りつつ、楽しみながら、たくさん学び、たくさん失敗して、たくさん気づきを得ることで、傷病者本位の活動ができる。そんな救急隊員になって欲しいです。